

◆団体基本情報

| | | | | | | | |
|----------|---|-----------|--------------|--------------|----------------------|----------|----------------|
| No. | 18 | 種別 | 公益財団法人 | 団体名 | 公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団 | | |
| 所在地 | 〒980-0012 仙台市青葉区錦町一丁目3-9 | | | | | | |
| 電話番号 | 022-225-3934 | | FAX番号 | 022-225-4238 | | 所管 部局 | 文化観光局 文化振興課 |
| 団体ホームページ | https://www.sendaiphil.jp/ | | | | | | |
| 代表者職氏名 | 理事長 高橋 宏明 | | | 設立年月日 | 平成4年4月1日 | | |
| 資本金・基本財産 | 1,196,014 千円 | 市の出捐額(割合) | 1,000,000 千円 | (83.6 %) | | | |
| 設立目的 | 交響管弦楽の演奏により、音楽文化の振興を図り、芸術文化の向上に寄与することを目的とする。 | | | | | | |
| 事業概要 | オーケストラによる演奏事業の実施 | | | | | | |
| 評価対象決算期 | 令和4年4月1日～令和5年3月31日 | | | | | | |

◆人員等の状況

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-------------|----------|----------|----------|
| ①常勤役員数 | 4 人 | 4 人 | 4 人 |
| うち市派遣 | 1 人 | 1 人 | 1 人 |
| 市退職者 | 1 人 | 1 人 | 1 人 |
| ②常勤役員平均年齢 | 59.0 歳 | 55.8 歳 | 56.0 歳 |
| ③常勤役員平均年間報酬 | 7,451 千円 | 6,545 千円 | 6,833 千円 |
| ④職員数 | 88 人 | 86 人 | 83 人 |
| うち市派遣 | 1 人 | 1 人 | 1 人 |
| 市退職者 | 5 人 | 3 人 | 3 人 |
| ⑤職員平均年齢 | 49.8 歳 | 49.9 歳 | 49.5 歳 |
| ⑥職員平均年間給与 | 5,021 千円 | 5,282 千円 | 5,372 千円 |

◆主要財務データ

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ①当期経常増減額 | 113,007 千円 | 12,714 千円 | 17,823 千円 |
| ②当期経常外増減額 | 778 千円 | 0 千円 | 198 千円 |
| ③当期一般正味財産増減額 | 113,706 千円 | 12,630 千円 | 17,938 千円 |
| ④一般正味財産期末残高 | 65,958 千円 | 78,588 千円 | 96,526 千円 |
| ⑤指定正味財産期末残高 | 1,220,613 千円 | 1,211,057 千円 | 1,196,014 千円 |
| ⑥正味財産期末残高 | 1,286,571 千円 | 1,289,644 千円 | 1,292,540 千円 |
| ⑦長期借入金残高 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |

◆市の財政的関与

| | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|-------------------|------------|------------|------------|
| ①市からの補助金 | 322,257 千円 | 317,340 千円 | 316,921 千円 |
| ②市からの委託料(指定管理料含む) | 550 千円 | 0 千円 | 220 千円 |
| ③市に対する収入依存度 | 37.23 % | 37.38 % | 35.21 % |
| ④市からの借入金 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| ⑤市からの債務保証に係る債務残高 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |
| ⑥市からの損失補償に係る債務残高 | 0 千円 | 0 千円 | 0 千円 |

◆主要事業一覧及び概要

| 事業名 | 事業概要 | 令和4年度事業費 |
|--------------|--|------------|
| 自主事業（自主公演） | 楽団の基本事業である定期演奏会9回18公演及び特別演奏会8日9公演（新型コロナウイルス感染症の影響により2日2公演中止） | 95,271 千円 |
| 依頼演奏会 | 地方自治体、企業及び団体などからの依頼を受けて演奏する事業54日61公演（同14公演中止等） | 163,874 千円 |
| 室内楽 | 弦楽四重奏などの小編成で行う依頼演奏会86回 | 7,693 千円 |
| ジュニアオーケストラ事業 | 仙台市の音楽文化の一層の振興と発展を図ることを目的とした事業の受託業務 | 20,238 千円 |

◆経営評価の総括

| 項目 | 外郭団体による総括 | 所管局によるコメント |
|-----------------------|---|--|
| 1. 公益的使命・市が期待する役割への対応 | 当初予算時点での計画が91公演と持ち直し、その後、多くの公演が中止や開催見送りとなったものの、新たな学校巡回公演やアートキャラバン公演を受注したこと等により、88公演を開催することができた。 また、青少年等への普及・指導等では仙台ジュニアオーケストラの指導にあたりるとともに、3年連続で中止となったオーケストラ鑑賞会の代替公演として、室内楽による学校訪問ミニコンサートを小学校66校で開催するなど、機会提供に力を入れた。 今後も感染症対策を万全に行い、音楽の素晴らしさを届ける活動を継続し、楽都・仙台の推進に貢献していく。 | 当楽団は、県内唯一のプロオーケストラとして、仙台国際音楽コンクールでホストオーケストラを務めているほか、仙台ジュニアオーケストラの演奏指導や、学校訪問ミニコンサートの開催など、「楽都仙台」を掲げる本市の施策の推進、若い世代への本市の音楽振興施策に大きく寄与している。 引き続き、本市の音楽文化の普及・振興の中心的役割を担っていただくことを期待する。 |
| 2. 業務・組織管理 | 平成30年度当初から、総務部・事業部の業務分掌を見直し、営業・広報・演奏事業の連携をさらに強化・充実させた営業推進体制とし、収益向上を目指すための簡素かつ効率的な事業運営体制を構築している。楽団員については、引き続き、定年後の再雇用を行うとともに、楽団員数規模の適正化を中心とした効率的な組織運営を図りながら、楽団の音楽的水準の向上に努力している。 | 「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づいた楽団員数の適正化、及び事務局の営業推進体制の効率化が着実に進められている。今後も安定的かつ効率的な業務・組織管理に努めていただきたい。 |
| 3. 財務状況 | 令和4年度は、自主公演の入場者数が回復傾向にあることや、仙台国際音楽コンクールの開催など依頼公演数の増、大口の寄付金があったこと等により事業収益が増加し、経常増減額は黒字となった。 しかしながら、令和4年度は17,822千円の黒字となっはいるものの、日本オーケストラ連盟を通じた寄付金が例年になく多額であったこと（14,700千円）や、3年に1度の仙台国際音楽コンクールからの収支差益48,700千円があり、この2つが無くなる令和5年度以降は、厳しい財団運営が予想される。 引き続き楽団の人員体制の適正化による費用の圧縮を中心とした経営改善の取り組みを進め、持続可能な財務基盤の確立を図っていききたい。 | 令和2年度、令和3年度に続き、令和4年度も経常増減額は黒字になったものの、例年になく寄附金や仙台国際音楽コンクールによる収入が大きく、恒常的な収入による黒字転換には至っていない。企業等からの依頼公演数がコロナ禍前の水準まで回復していない状況も踏まえ、引き続き楽団員数の適正化、依頼公演や国補助金や民間助成金等の獲得に努め、収入増に向けた取り組みを行っていただきたい。 |
| 4. 今後の方向性及び課題 | コロナ禍の中、令和4年度も経常収支は黒字となったものの、財団・楽団が、仙台市の貴重な文化的資源として今後も存続していくためには、持続可能な財務基盤の確立が欠かせない。そのため「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づく各種の取り組みを着実に進める必要がある。とりわけ、法人サポート会員（賛助会員）の増加や有料入場者率の向上に力を入れるとともに、各地の自治体、教育委員会、ホール等に対して新たな演奏会の企画・提案を行うことや、企業・団体からの協賛等の協力を依頼しながら継続性のある公演の確保を図っていくほか、楽団員数規模の適正化など効率的な組織体制を目指す必要がある。 引き続き、顧客サービスの向上により楽団への継続的支援を呼びかけるとともに、新規顧客の開拓のため、SNSや動画配信など、広報の充実にも取り組んでいきたい。 | 「経営健全化に向けた新たな取り組み」に基づき、持続可能な、安定した財務基盤の確立に努めていただきたい。 また、魅力的な楽団づくりは、各種会員の顧客満足度の向上、新規顧客の獲得のみならず、地域資源として仙台の魅力向上にも寄与するものである。当楽団には、楽都仙台を代表する管弦楽団として、市内外問わず活動の場を広げていただくとともに、社会状況や市民のニーズに対応した新たな形態での公演の試行や、広報戦略の展開に取り組んでいただきたい。 |